

リハビリテーション科

I プログラムの名称

慶應義塾大学病院 リハビリテーション科初期臨床研修プログラム

II プログラムの指導者

統括責任者

慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室

教室主任 辻 哲也 教授

研修医担当主任 大嶋 理 助教

III リハビリテーション科の概要・特徴・特色

当科では、院内の入院患者の全てのリハビリテーションに関する診療を行っている。急性期病院、大学病院の特色として疾患は非常に多岐に渡り、脳血管リハビリテーション、運動器リハビリテーション、がんリハビリテーション、呼吸器リハビリテーション、心臓リハビリテーション、廃用症候群リハビリテーションがバランスよく行われている。

当科での入院病床は5床であり、先進的なニューロリハビリテーション手法を用いた運動麻痺の治療を中心に行われている。小児発症の運動麻痺など他院では希少な症候に関する治療も行われている。

外来では、他診療科との連携に加えて、リンパ浮腫治療外来、運動麻痺診療外来、痙縮治療外来等の特殊外来が行われている他、腫瘍センター、痛み診療センターでも外来診療を行うなど、学際的な治療の重要な役割を担っている。

IV 到達目標

厚生労働省による「臨床研修の到達目標」に準じる。

一般目標 (GIO)

将来の専門性にかかわらず、リハビリテーション医学・医療の基本的な診療能力（態度、技能、知識）を身につける。

行動目標 (SBOs)

- (1) 患者の社会的側面を配慮した意思決定ができ、患者との良好な関係を構築できる。
- (2) リハビリテーション・チームにおいてリーダーシップを発揮できる。他職種との適切なコミュニケーション能力ができる。
- (3) 診療やリハビリ訓練における問題を適切に把握、評価でき、その問題に適切に対応し、解決することができる。
- (4) 患者の的確な問診ができる。
- (5) カンファレンスで適切な症例提示のプレゼンができる。
- (6) 診察所見から、適切なリハビリプログラムを作成できる。また、リハビリテーション、在宅医療、介護を含めた総合的治療計画に参画できる。

(7) 医療の社会性を理解し、医療保険制度、社会福祉、在宅医療の知識を得る。

V 研修方略

研修期間が1か月の場合は、脳卒中、整形外科疾患、内科疾患のリハビリテーションを中心に研修する。2か月間以上研修する場合には、がんのリハビリテーション、小児のリハビリテーションなど対象範囲を広げるとともに、筋電図、嚥下機能検査、痙縮治療などの手技について、より経験を増やす。具体的には下記の診療、手技を経験する。

A 基本的な診察法

- ・ 骨・関節・筋肉系の診察
- ・ 神経学的診察
- ・ 能力低下（ADLを含む）の評価
- ・ 排尿機能の診察
- ・ 摂食・嚥下機能の診察
- ・ 小児の成長・発達の診察

B 以下の項目について自分で検査ができる。

- ・ 検尿
- ・ 検便
- ・ 血算
- ・ 動脈血ガス分析
- ・ 心電図
- ・ 簡易型血糖測定
- ・ パルスオキシメトリー
- ・ 筋電図
- ・ 嚥下造影検査

C 以下の検査の選択・指示ができ、結果を解釈することができる。

- ・ 血液生化学
- ・ 単純X線検査
- ・ 頭部CT検査
- ・ 頭部MRI検査
- ・ シストメトリー
- ・ 体性感覚誘発電位検査
- ・ 経頭蓋磁気刺激検査

D 以下の基本的治療行為を自らできる。

- ・ 薬剤処方
- ・ 輸液
- ・ 抗生剤の投与
- ・ 食事・生活指導
- ・ 注射法
- ・ 採血法

- ・ 導尿法
- ・ 浣腸・胃管挿入
- ・ 間歇チューブフィーディング

E リハビリテーション医学の以下の治療法に関する知識ないし手技を習得する。

- ・ 理学療法
- ・ 作業療法
- ・ 言語聴覚療法
- ・ 物理療法
- ・ 薬物療法
- ・ 外科的手技

F 経験すべき疾患

- ・ 脳血管障害
- ・ 脊髄損傷・脊髄疾患
- ・ 神経筋疾患
- ・ RA, 骨関節疾患
- ・ 切断
- ・ 心筋梗塞, 心疾患
- ・ 呼吸器疾患
- ・ 小児
- ・ がん

週間スケジュール

	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5
月		外来業務				病棟業務				
火		病棟業務				病棟業務				
水		筋電図検査				病棟カンファレンス	教授回診	病棟業務	嚥下造影検査	
木		病棟業務				外来・病棟業務 特殊外来（リンパ浮腫・痙縮）				
金		外来業務 外来業務				装具外来 筋電図検査				
土		外来業務								

VI 研修評価

オンライン臨床教育評価システム（EPOC2 : <https://epoc2.umin.ac.jp/epoc2.html>）にて、評価票ⅠⅡⅢの研修医評価、指導医評価、メディカルスタッフ評価を実施する。経験すべき症候/疾病・病態を当診療科にて経験した場合は、病歴要約の提出を確認し、EPOC2にて承認を行う。2年間の研修修了時には、評価票ⅠⅡⅢの各評価がレベル3に到達するよう指導を行う。